



園庭では、赤とんぼの姿がちらほらと見られるようになり、夜になるとどこからともなく鈴虫の涼やかな鳴き声が聞こえてきます。朝晩は少しひんやりとした空気に秋の気配を感じる一方、日中はまだ半袖で心地よく過ごせる日も多く、夏と秋がゆっくりとバトンタッチをしているようです。

昨日の運動会も、皆様の温かなご声援とご協力のおかげで、無事に終えることができました。子ども達にとって、ご家族に見守られながら力いっぱい頑張った一日は、大きな自信と心に残る思い出になったことと思います。改めまして、運動会開催にあたりご理解とご協力をいただき、心よりお礼申し上げます。

前号でもお知らせした通り、これからそれぞれの学年で「秋の遠足」に出かけます。大きな行事である運動会を最後まで頑張った子ども達にとって、ちょっとしたご褒美の時間でもあります。

友達や先生と一緒に秋の自然や施設での体験を楽しみながら、運動会とはまた違った表情や笑顔がたくさん見られることを楽しみにしています。

秋ならではの楽しい思い出を、みんなでたくさん作っていききたいと思います。



令和9年度の園児募集も本格的な時期を迎えています。お友達やお知り合いの方で、来春からの幼稚園就園をお考えのご家庭がいらっしゃいましたら、ぜひ白ゆり幼稚園をご紹介いただければ幸いです。

実際の園生活や子ども達の姿をご覧いただくことが、幼稚園選びの一番の参考になると考えています。

皆様のお力添えをいただきながら、新しい白ゆりっ子との素敵なご縁に繋がることを願っています。

冬期間、白ゆりっ子達がかぶる毛糸帽子は、開園以来受け継がれてきた白ゆり幼稚園の大切な伝統のひとつです。前理事長がデザインしたオリジナルの帽子を、これまでたくさんのお母さんやおばあちゃんが、子ども達のために一目一目、心を込めて編んできました。

この4月から入園されたご家庭には、別紙にて詳しくご案内いたします。幼稚園指定の毛糸をご購入いただき、ご家庭で手編みにてご用意ください。

「編み物はどうも苦手で…」という方もご安心ください。ご希望の場合は、代わりに編んでくださる方がおります。(別途、編み代がかかります)。

時代が変わっても、子どもを思う気持ちは変わりません。ご家庭の温もりが詰まった毛糸帽子をかぶる白ゆりっ子達の姿は、これからも大切に残していきたい白ゆりの冬の風景です(笑)

## 「その気になる」から、子どもは育つ！

子どもが100人いれば、そこには100通りの個性があります。得意なことや遅え、苦手なことも違う。すぐに挑戦する子もいれば、しばらく友達の姿を眺めてから、そっと一步を踏み出す子もいます。そして、その一人ひとりの中には、私たち大人にはまだ見えていない、たくさんの可能性が眠っています。

だからこそ、幼児教育に携わる教師の大切な役割のひとつは、子どもを「その気にさせること」だと私は考えています。「やってみたい!」「もう一回やってみようかな…」「○○ちゃんみたいになりたい!」「今度はできるかもしれない…」そんな子どもの心の中にある小さな「意欲のスイッチ」を見つけ、そっと押してあげることです。

園生活を見渡してみると、子ども達が出会う活動や経験は数え切れないほどありますね。

思い切り遊ぶ、時にはちょっとしたイタズラをして叱られる、絵を描く、歌を唄う、本を読む、文字を書く、逆立ちに挑戦する、跳び箱、縄跳び、お片付け、先生のお手伝い、ハーモニカで一つの曲を吹けるようになる、友達と力を合わせる、順番を待つ、譲り合う、負けても、もう一度立ち上がる…一見すると、それぞれまったく違う活動ですが、しかし私たちが大切にしているのは、「何ができるようになったか」だけではありません。その過程で子ども達が何を感じ、どんな心を動かしたのかです。

できた時の達成感。頑張った後の満足感。夢中になった時の充実感。負けた時の悔しさ。転んだ時の痛み。思い通りにならなかった時の悲しさ。友達に助けてもらった時の嬉しさ。誰かの役に立てた時の誇らしさ…

幼児期には、嬉しいことだけを経験すればよいわけではありません。悔しい、悲しい、痛い、うまくいかない…そんな感情も含めて、たくさん心を動かすことが大切なのです。

そして、その経験へ子どもを一步踏み出させる原動力となるのが「意欲」です。

昨日の運動会でも、まさにその姿をたくさん見ることができましたね。

運動会当日の一日だけを切り取れば、華やかな行事に見えるかもしれませんが、しかし、私達が本当に大切にしているのは、そこに至るまでの毎日の積み重ねです。

うまくいかなかった日…思うように走れなかった日…友達と息が合わなかった日…負けて悔しくて涙を流した日…

それでも、「明日はもう一回やってみよう」と小さな努力を重ねてきました。

その一つひとつが、いつの間にか「もっとやりたい」「できるようになりたい」という意欲へと変わり、本番で見せたあの真剣な表情や力強い姿に繋がっていたのだと思います。

子どもの「やる気」は、とても頼もしい力です。しかし一方で、幼児期の意欲はとても繊細です。できないことを急かされたり、人と比べられ過ぎたり、「やりなさい」と強く求められ続けられれば、小さなやる気の芽は簡単にしぼんでしまいます。だから教師は、一人ひとりをよく見る必要があります。

背中を押した方がよい子、少し待った方がよい子、褒めることで伸びる子、悔しさを経験することで次へ向かう子、友達の姿が一番の刺激になる子…同じ言葉、同じ方法ですべての子どもが動くわけではありません。

その子の心がどこにあるのかを見極め、「ちょっとやってみようかな」と思える環境をつくる。成功できそうな小さな段階を用意する。そして挑戦したことそのものを認め、次の一步に繋げていく…それが、教師の専門性だと私たちは考えています。少し大げさに聞こえるかもしれませんが、白ゆりの教師達は「子どもをその気にさせるプロ集団」でありたいと思っています。

幼児期は、心の土台をつくる大切な時期です。運動会を終えた今、子ども達の中には、これまで積み重ねてきたたくさんの「小さな努力」が、新しい「意欲」となって残っています。

これからも私たちは、一人ひとりの心の中にある「やってみたい」を見逃さず、子ども達が自ら育とうとする力を信じながら、その一步を支えていきたいと思っています。